

国営大中の湖土地改良事業（国営かんがい排水事業）

事業の概要

■目的

本地区は、干拓により造成された水田農業地域であり、琵琶湖の水位と標高差がほとんどないため、新田排水機場と大幹線排水路が本地区の排水を担う心臓部である。

新田排水機場は、築造50年あたりを迎えて故障が頻発するようになり、緊急停止が発生したり、排水能力の低下等が確認されるようになった。このため、整備補修費や頻発する故障に対応する労力が増加していった。

また、調査の結果、大規模地震発生時における十分な耐震性を有していないことが確認され、これに対応する対策も必要となった。

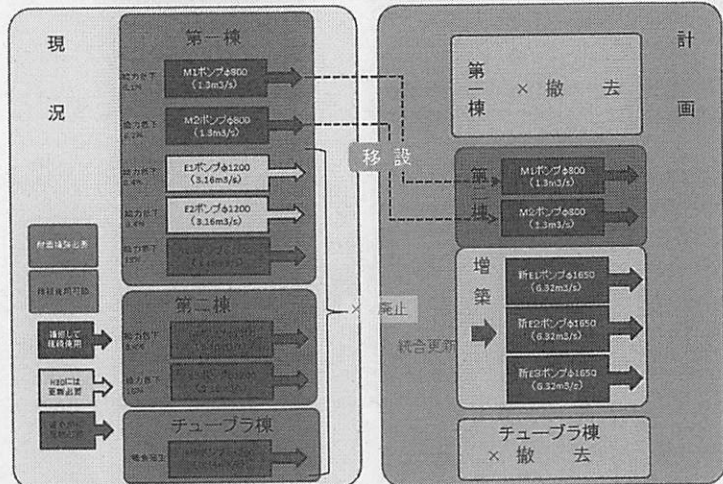
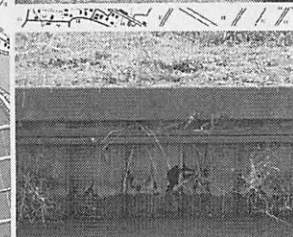
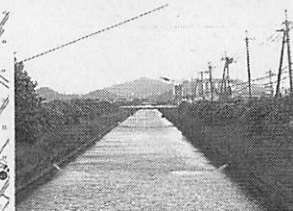
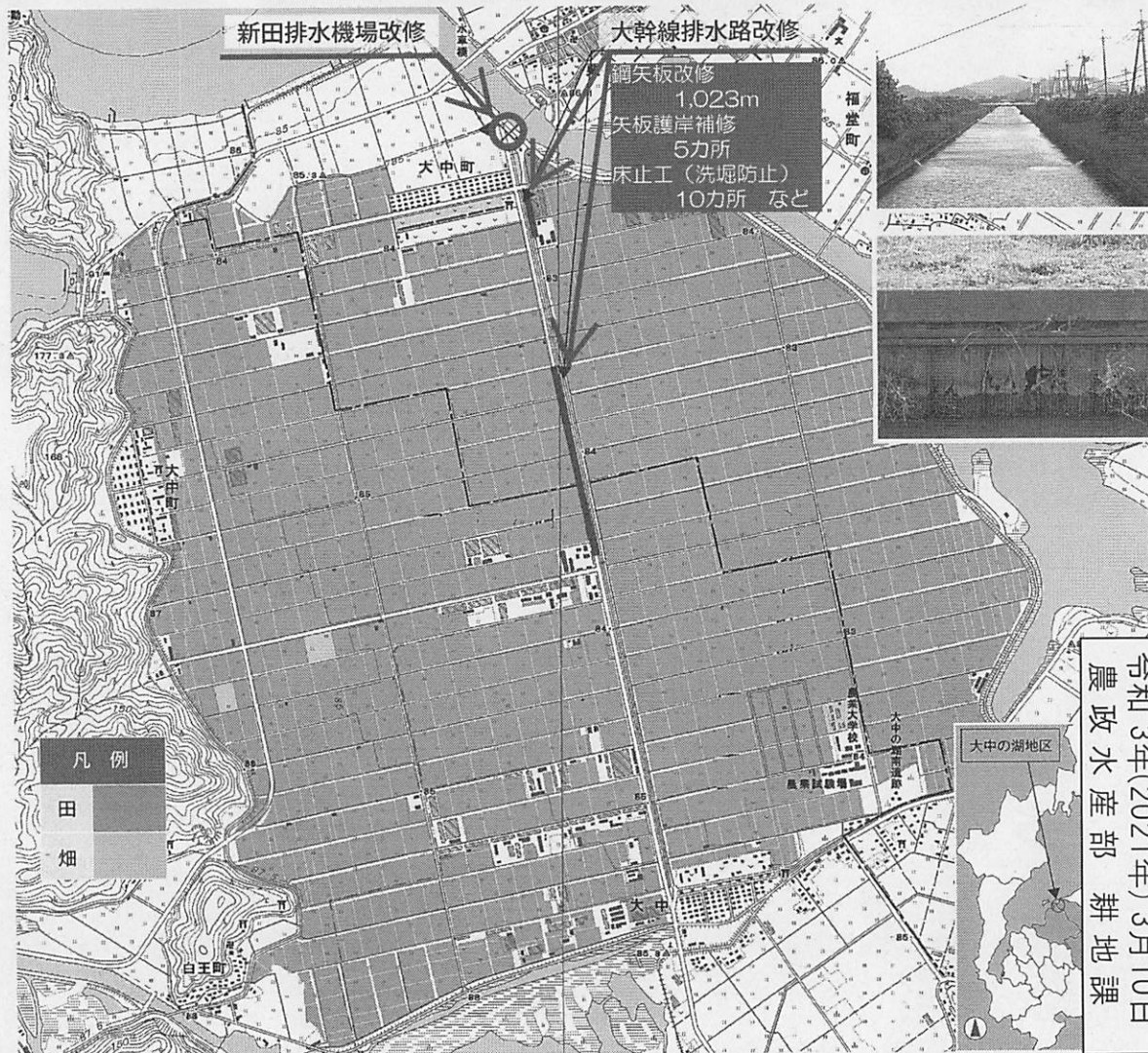
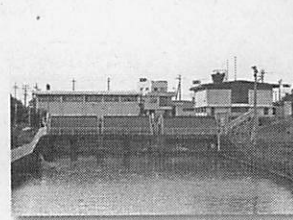
このため、排水機場の更新が必要となり、ポンプの更新および新設を行うことになった。

■概要

事業名	国営かんがい排水事業
地区名	大中の湖地区
関係市	滋賀県近江八幡市・東近江市
事業工期	平成27～令和2年度
受益面積	930ha
主要工事	新田排水機場 1ヶ所(排水量:常時2.6m ³ /s 最大21.56m ³ /s) 大幹線排水路 1.3km

■総事業費 41億円

排水ポンプ
新設 3 台
移設 2 台
排水機場
新設 1 棟
廃止 2 棟



干拓地の排水機場の改修であるため、現行施設を使用しながら新しい排水機場を造成する。このため、洪水期の排水能力をなるべく落とさないようなタイミングでポンプの設置や移設及び廃止を行う必要がある。

常用の電気ポンプ(M1・M2)は、近年にオーバーホールを行っているため、耐用年数を超過している電気的な部品を交換し、継続使用する第2棟に移設する。その他6台のポンプは能力低下が著しく、耐用年数も超過していることから、全面更新を行う。

更新する6台は、限られたスペースに設置する必要があることから、能力を統合して3台とする。

環境・農水常任委員会資料2
令和3年(2021年)3月10日
農政水産部 耕地課